

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 10 月 1 日 (2020.10.1)

【公開番号】特開 2019-5107 (P2019-5107A)
 【公開日】平成 31 年 1 月 17 日 (2019.1.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-002
 【出願番号】特願 2017-122969 (P2017-122969)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 7 日 (2020.8.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行う遊技機であって、

第 1 制御手段と、

前記第 1 制御手段と通信可能な第 2 制御手段と、を備え、

前記第 1 制御手段は、

所定の場合に、前記第 2 制御手段に対してリセット信号を第 1 期間にわたって供給し

、

前記第 2 制御手段と特定の通信ができない期間が特定期間を超えた場合に、当該第 2 制御手段に対して前記リセット信号を前記第 1 期間よりも長い第 2 期間にわたって連続して供給し、

前記特定の通信は、前記所定の場合に前記リセット信号が前記第 1 期間にわたって供給され、前記第 2 制御手段がリセットされたあとの通信であり、

前記第 2 制御手段が発熱により異常となったときに、前記特定の通信ができない期間が前記特定期間を超え、

前記第 1 制御手段は、前記特定の通信ができない期間が前記特定期間を超えた場合に、前記リセット信号を前記第 2 期間にわたって供給することで前記第 2 制御手段の動作を前記第 2 期間にわたって停止させ、

少なくとも前記第 2 期間において、前記第 2 制御手段を冷却する冷却手段をさらに備え

、

前記第 2 制御手段は、前記第 1 制御手段から送信された信号に基づいて、コマンドの整合性を判定可能である、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

(A) 上記目的を達成するため、本発明に係る遊技機は、
遊技を行う遊技機であって、
第 1 制御手段と、
前記第 1 制御手段と通信可能な第 2 制御手段と、を備え、
前記第 1 制御手段は、

所定の場合に、前記第 2 制御手段に対してリセット信号を第 1 期間にわたって供給し

、

前記第 2 制御手段と特定の通信ができない期間が特定期間を超えた場合に、当該第 2
制御手段に対して前記リセット信号を前記第 1 期間よりも長い第 2 期間にわたって連続し
て供給し、

前記特定の通信は、前記所定の場合に前記リセット信号が前記第 1 期間にわたって供給
され、前記第 2 制御手段がリセットされたあとの通信であり、

前記第 2 制御手段が発熱により異常となったときに、前記特定の通信ができない期間が
前記特定期間を超え、

前記第 1 制御手段は、前記特定の通信ができない期間が前記特定期間を超えた場合に、
前記リセット信号を前記第 2 期間にわたって供給することで前記第 2 制御手段の動作を前
記第 2 期間にわたって停止させ、

少なくとも前記第 2 期間において、前記第 2 制御手段を冷却する冷却手段をさらに備え

、

前記第 2 制御手段は、前記第 1 制御手段から送信された信号に基づいて、コマンドの整
合性を判定可能である、

ことを特徴とする。

(1) 上記目的を達成するため、他の遊技機は、

遊技を行う遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1 など）であって、

第 1 制御手段（例えば、第 1 演出制御基板 1 2 など）と、

前記第 1 制御手段と通信可能な第 2 制御手段（例えば、表示制御部 3 1 の V D P など）
と、を備え、

前記第 1 制御手段は、前記第 2 制御手段と所定の通信ができない期間（例えば、立ち上
がり信号を受信できない期間など）が特定期間（例えば、1 0 秒間など）を超えたときに
、当該第 2 制御手段に対して特定信号（例えば、リセット信号など）を所定期間（例えば
、6 0 秒間など）にわたって連続して供給する、

ことを特徴とする。